

平成 30 年 2 月 26 日（月） 第 1 回ロスマリン酸研究会

全講演を受けて

森下 竜一 先生

大阪大学大学院医学研究科
臨床遺伝子治療学 寄附講座 教授

ロスマリン酸はアミロイドベータの凝集を防ぎ、また分解する作用があるということで、アルツハイマー型認知症のことを考えると非常に重要な成分といえます。

私の研究室でもアルツハイマー病の研究をしております。糖尿病の状態、特に肥満の状態を起こすモデルマウスと、アルツハイマー病を発症するモデルマウスを掛け合わせた実験をしたところ、2 か月くらいで認知症を発症し、世界最速で認知症になるとの結果が得られました。このことから、肥満、いわゆるメタボリックな状態が認知症のリスクファクターであるということを報告しています。



そこで、まずカレーのターメリックに入っている成分であるクルクミンの効果を試してみました。確かに試験管の中ではアミロイドベータの凝集を防ぐという効果が出ましたが、これをカレーに置き換えると、朝昼晩 3 食ほぼ毎日カレーを食べ続けなければならないという量に相当します。基礎研究の立場では効果のある食材として候補になりそうですが、ヒト臨床においては難しいのではないかという結論に達しました。

ところが、今日の講演を聴くと、スペアミントのロスマリン酸は、臨床的にも非常に優

れたエビデンス（研究成果）が出ていますし、人でも効果があるようですので、これからの研究が非常に楽しみです。

認知症問題は大きな課題で、先進国全てが直面している大きな問題です。研究会を通じてロスマリン酸を含む素材が広まり、認知症の予防に繋がればと思います。